

文字は永遠の魂である

言葉は、人間にとって、最も大切なものの一つです。私は、「言葉こそ人間そのものである。」というように感じています。

それは、カマラが、言葉を理解した時に、初めて、喜びや悲しみや恥じらいの感情をもつようになったという事実が、これを何よりもよく表現していると思うのです。

ところで、人間は、言葉(音声言語)の上に、文字という視覚言語を発明しました。人間は、言葉によって人間になりましたが、人間は、この文字によって、その能力を飛躍的に高めることができるようになったのです。

言葉は、すぐに消えてしまい、しかも遠くには伝わらないという、時間的にも空間的にも極度に制限されていたものを、文字という、時間的にも空間的にもほとんど無限大といえるほどに拡大する力をもったものを作り出すことによって、人間の生命を、永遠なものに近づけさせることを可能にしたのです。

その本質からして、今まで不安定で揺れていた言葉も、文字の発明により、その支えを得て、ずっと安定したものになりました。今まで、絶えず揺れていて、とかくあいまいだった精神も、文字によってはっきりと示されるようになりました。

言葉は、文字によってその価値をいっそう高められた、というこの事実を、私たちは見落としてはなりません。

しかも、文字のおかげで、私たちは、釈迦やキリストや孔子に近づいて、親しく語ることができるようになったのです。